

2016年8月7日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 1章1～11節

聖書：聖霊を待ちなさい

はじめに

きょうから使徒の働きをしばらく見て参ります。

イエス・キリストが天に上げられた後、弟子たちの大きな働きによって、やがて最初の教会がエルサレムに建てられていきます。そこからやがてイスラエル国内はもとより、地中海に面している他の国々にも拡大し、各地に教会が誕生していきます。それがどんなふうにして行われたのかが、この使徒の働きの中に詳しく記されていますが、ある方は「聖霊行伝」と呼ぶほど、そこには聖霊の働きが深く関わっております。

この教会は十三年前に西教会の開拓からスタートしましたが、その西教会も OMF のトレボ宣教師の働きから始まったと聞いています。そんなふうにとんどん昔にさかのぼっていけば、結局この使徒の働きにたどり着きます。その教会はどのように始まったのか。初代教会の人々は何をしていたのか。教会とは何なのか。そこからまた私たち自身のことについても再確認できればと願っています。

1 イエスの行いについて

1) 苦しみを受けた

まず1節に「私は前の書で書いた」とあることから。前の書とはルカの福音書のことです。その続きとして使徒の働きも書いた。ですから、使徒の働きの最初の書き出しは、ルカの福音書の最後のところをもう一度復習する形になっています。ルカの福音書24章45

節から48節を開いてください。「そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、こう言われた。『次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらのことの証人です。』」

このことばと3節のことばを比べます。ことばは若干違うところもありますが言っている事は同じです。ポイントは三つあります。まず一つ目が「イエスは苦しみを受けた」こと。主イエスは、私たちの罪の身代わりとなられて十字架で苦しみを受け、さばきを受けられ、そこで死んでくださった。もう何度も聞いていますから、当たり前のように思うかもしれませんが、これが私たちの出発点になります。

2) 四十日の間、現れた

次に主がしてくださったことのポイントの二つ目。「四十日の間、彼らに現れた」ことでした。つまり、死からよみがえられたということです。こういう話をしますと、そんなことは信じられないという方もいます。ではルカはどうだったのか。彼の職業は医者であったと言われます。死んだ人が生き返ることなどありえないことは当然わかっている。主イエスのよみがえりの話を聞いたとき、にわかには信じられない。それでルカは、よみがえられたイエスを目撃した使徒たちの話を

聴き、いろいろな証拠を調べた。そうするとすべての証拠は主がよみがえられたことを示して、どこにも矛盾がない。そこでようやくルカも主のよみがえりを確信していった。「数多くの証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された」とあるのは、おそらくそういうルカ自身の経験あつてのことでしょう。

3) 神の国のことを語った

そしてポイントの三つ目。その現れている間に、イエスは使徒たちに神の国のことを語りました。でも、これだけではいったい何を語ったのかよくわからない。それで先ほどのルカの福音書24章47節をもう一度見ていきます。「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」

最初、弟子たちがイエスから神の国のことについて聞いた時、これはたつきり政治の話だと思いました。それでこう尋ねる。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興して下さるのですか。」けれども主は、「そんなことはあなたがたは知らなくてよい」と前置きしてから、神の国とは、政治や軍隊の力でつくるものではない。主イエスの名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、全世界に宣べ伝えられていく。それによって神の国が形づくられるのだと教えられました。使徒の働きは、この神の国がどのように拡大していったのか、その様子を記しています。ではその働きの力はどこから来るのか。次に見ていきます。

2 聖霊のバプテスマを受けてわたしの証人となる

1) エルサレムにとどまりなさい

イエスが天に上げられる直前に、使徒たちに語ったことばに注目します。4節の途中から5節。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」そして8節。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

あなたがたは聖霊のバプテスマを受けて、力を受けなさいと言われていました。確かにこのあと、2章のところで非常にドラマティックな形で弟子たちの上に聖霊が降る場面が出てきます。

主のご命令は、エルサレムにとどまっていなさい、でした。このことに注意したいと思います。自分の力でするのではない。主が力を与えてくださるから、待ちなさい。そう言うてくださいました。

2) 聖霊の力を受けるまで

待つことは簡単そうに聞こえます。でも実はこれが難しいのではないですか。皆さんはこんな失敗をしたことはなかったですか。私は教会のために一生懸命奉仕しました。でもそのうち疲れてしまい、今はもう何もしたくない。私は家族や職場の人たちに一生懸命伝道しました。でも、そのうちなにか空回りするような気ができてきて疲れてしまった。そのうちほかの人への不満や怒りが出てきてしまう。そんなむなしさを感じたことはなかったですか。

どうしてこんなことが起きるのでしょうか。

聖書に答えが書いてあります。エルサレムで待ちなさい。そして聖霊のバプテスマをいただき、力を受けなさい。確かにあなたがたは主の証人となってイエスを宣べ伝えるようになるけれど、それは自分の力ですることではない。聖霊があなたを励ましてくださる。その聖霊の力によってやることですよ。そう教えています。

そこで問題です。では私たちはいつ聖霊のバプテスマを受けるのか。使徒の働き時代には、天から激しい風が吹いてきて家全体が激しい音に包まれ、そのとき人々は聖霊を受けたと書かれています。

3 教会

1) 聖霊の働き

これを読むと驚きます。今はどうなのでしょう。このような事はまず起きません。ということは、聖霊を受けていないということでしょうか。決してそんなことはありません。使徒の働きを見ると、この後各地に教会が建てられていきますが、いつも教会でこんな激しい現象が起きたとは書いていない。2章に書いてあるようなことは、初代教会のスタート時点に限られた現象だったようです。ということは、今の私たちは別の形で聖霊をいただいていると考えたほうがよいと思います。そう言っても皆さん不安に思っいらっしやるはずで。私は本当に聖霊をいただいているのだろうか。自覚がないので自信がない。

でもパウロはロマ書5章5節でこう言っています。「(神の栄光を見るという) この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

私たちは生きている限りたくさん試練をくぐっていきます。手にしていたものを失う。愛する者が亡くなり、別れなければならない。うらまれたり、ねたまれたり、憎まれたり、つらいことも聞かなければならない。信仰が弱くなることもある。それでも私たちが信仰を失わないのはなぜか。聖霊が与えられているから、と言っています。よく考えれば、どうして自分が主を救い主と告白するのか、どうして信じ続けようとするのか。説明できない。あなたの中にすでに聖霊が住んでくださり、励ましてくださるから。そこで初めて、自分にも聖霊がいてくださることに気がつく。神は皆さんをひとりぼっちにする方ではないのです。聖霊なる方を与えています。

この教会もいろいろなところを通ってきました。でも私は皆さんに知っていただきたい。大変なことが起きたとき、私は頭を抱えてどうしようと悩みました。それが聖霊が働いてくださり、不思議なことが起き、考えられないような恵みをいただけてきました。私は何もできなかったけれど、聖霊がしてくださったとしか言いようがない。そのことを何度も私は目にしてきました。この教会で起きていることはいつも聖書に書かれているとおりである、そのことを皆さんに是非知っていただきたいと願っています。

2) やがて、天から来られるイエスを待ち望む

主を救い主と告白し、聖霊をいただいた者たちが集うところが教会です。その教会は何をしていくのか。今日の箇所から一つだけ確認します。11節後半。「あなたがたを離れて天に上げられたイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様

で、またおいでになります。」

弟子たちは天に上げられていくイエスを見上げていましたが、今私たちは、天を見上げて、そこからもう一度私たちのところに来てくださる主イエスを待ち望む。それが教会だと言われます。

この教会のホームページをご覧になった方はわかると思いますが、そこには写真が一枚置いてあって「教会から天を仰ぐ」とキャプションをつけています。主が雲の間から来られるのを待ち望む思いを表しています。

主は本当に来るのか。私のところには来てくれないのでは。ときにはいろいろと疑うこともあるでしょう。けれども聖霊が私たちを励ましてくださっています。初代教会の人々が、聖霊を待ちなさいと言われるほどに大切なもの。その聖霊をいただいていたことをもう一度感謝したいと思います。